

一般社団法人
日本画像学会
The Imaging Society of Japan

活動概要 **2026**



生活シーンにおける最適な画像空間の提供
Pursuit of Optimal Imaging Ambience

isj

会長メッセージ



藤井 雅彦（日本画像学会 第34代会長）

4月より会長に就任しました。慶應義塾大学SFC研究所の藤井雅彦です。6月12日から14日にかけて、東京工業大学すずかけ台キャンパスとオンラインのハイブリッド形式で開催された年次大会 ICJ2024は、発表数62、参加者数294と昨年より大幅に増加し、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻りつつあります。また、参加者の約80%が会場に足を運び、「来て・見て・語れ、画像技術の未来」という大会スローガンにふさわしいイベントとなりました。このスローガンのもと、多くの参加者同士の「つながり」が生まれ、さらなる発展へと続くことを期待し、会長就任の挨拶として「つながり」と「イノベーション」との関係について話をしたいと思います。（中略）イノベーションの定義についてはさまざまな意見がありますが、経済学者のシュンベーターが1911年に『経済発展の理論』で提示した「新結合」という概念がその起源になっています。『Architectural Innovation: The Reconfiguration of Existing Product Technologies and the Failure of Established Firms』の中で、横軸を中核的なコンセプトを維持する／転換する、縦軸を中核的コンセプトと構成要素との関係（アーキテクチャ）を変化させない／変化させるというポートフォリオを示し、イノベーションにつながる4つの起点を提唱しています。（中略）新しいアーキテクチャを模索する中で、既存技術、あるいは新規技術やアプローチを中核的コンセプトとどのように結びつけ、その方向性や妥当性を確認するためには、組織の外に出て他の技術者・研究者とつながり、誰がどのような専門に通じ、どういった知識や経験を持っているかといったTransactive Memoryを持ち（自分用百科事典の目次を作ることだと考えています）、そしてMemoryに記された適切な人々と議論することから始めるべきではないでしょうか。そのようなことができる場として学会は最適だと考えています。（中略）

学会とは研究成果を発表・議論するだけの場ではありません。もちろんそれを蔑ろにするのではなく、発表・議論からさらにつながりを得ることが、イノベーションにつながるかもしれないのです。このように自らの意思による組織外でのつながりが自分の成長だけでなく、延いては所属する組織の発展にも寄与できる可能性があることを理解していただき、ぜひ、学会に来ていただきたいと思います。（後略）

（日本画像学会誌、Vol.63-4(2024) 「巻頭言」より抜粋）

学会の概要

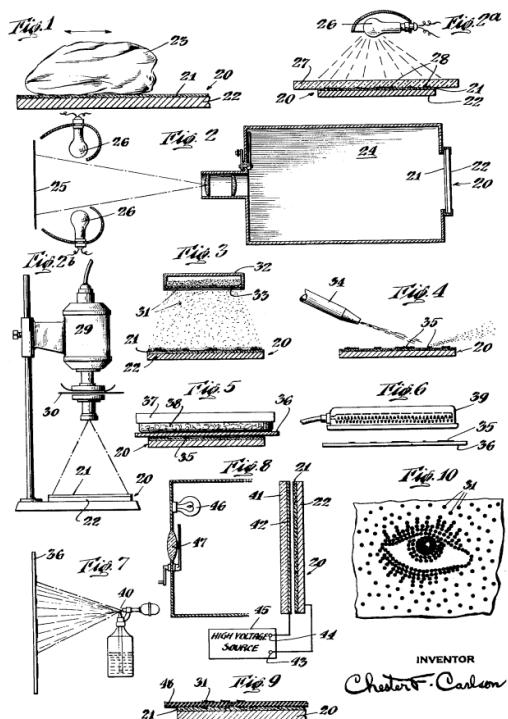
■ 「画像」とは

一般社団法人 日本画像学会は画像の基礎と応用に関する情報交流を行い、画像技術の進歩と発展を目指す技術者、研究者の集まりです。本学会で扱う「画像」には英語の“Imaging”という語を充てています。文字どおり訳せば「画像を作る」「結像する」となり、紙などの表示媒体上に、着色された物体や発色する物質を、さまざまな物理現象を駆使して人為的に並べることで、人が画像と認識できる状態のものを作り出す技術を指します。そのための作像プロセス技術とそれを支える材料技術、制御技術、解析技術、画像処理技術、画像品質を測る画像計測・評価技術、さらには人間にとっての画像の見え方や画像情報の認識能力の研究や、作像プロセスを画像以外のものづくりへ展開する研究などを本学会のスコープとしています。

■ 沿革

1938年、米国で C. Carlson によって電子写真法による最初の画像形成が行われ、1950年に Xerox 社から最初の商品が発表されました。文書の複写という労働から人類を解放するこの画期的な発明を日本へ導入する動きの中、1958年に電子写真学会として本学会が発足しました。

1980年代には、コンピューターの普及に伴い、デジタル化された画像情報を出力するため、電子写真法以外のプリントティング技術、デジタル画像処理技術、紙媒体以外のデジタル画像表示デバイスなどの新たな研究対象を取り込んできました。1998年に創立40周年を迎えるにあたり、学会名を日本画像学会とし、エレクトロニックイメージングも含むデジタル画像技術をカバーするように発展拡大いたしました。



Carlsonによる電子写真法発明時の特許図面

■ 現在

2010年に法人設立登記を行い「一般社団法人日本画像学会」として新たに出発しました。2014年、本学会をはじめとする画像関連諸分野の学協会が集い、統合的な画像の取り扱いに立脚した画像技術の新たな展開に寄与する情報の発信と議論の場を提供することを目的に、「画像関連学会連合会」が設立されました。この連合会の協同事業として、国際会議 ICAI2015（The 1st International Conference on Advanced Imaging 2015）を2015年6月に開催し、画像諸分野に関連する国内外の代表としての活動を続けています。

コンピューターの進化がさらに進み、人間の知覚レベルを超える情報量のデジタル画像データが扱えるようになった今日、画像技術はさらに高度化する一方、生活シーンで必要とされる画像情報のあり方も変化しています。本学会では2012年に学会としての長期ビジョン Vision55 を策定し、2018年に Vision 2030 として改訂、新たな挑戦をしていくところです。

現在、会員数は約700名、イメージングに対する大きな夢の実現に努力しています。

技術分野

現在、本学会が扱う技術分野は、画像に関する技術においても、プリンティングとその派生技術を主なフィールドとし、様々なアプローチで技術の深堀りをしています。

インクジェット

インクジェットプロセス、ヘッド構造・駆動、
インク材料組成及び色材、顔料など

電子写真

電子写真プロセス・デバイス、感光体・現像剤
および関連(色材、顔料)、機能材料など

ダイレクトマーキング

トナーマーキング、サーマルプリント
材料組成、色材顔料

デジタルファブリケーション

イメージング技術の他分野への応用

電子ペーパー/リライタブルマーキング

新規イメージング

ディスプレイ材料・デバイス

有機EL、液晶材料・技術、その他発光素子など

画像入力

イメージキャナー、デジタルカメラなど

画像処理およびネットワーク

画像基礎および計測評価

色・感性イメージング

3D・4D プリンティング

環境保全および省エネルギー関連

学会ビジョン

日本画像学会では、2012年に策定した Vision55 の理念に基づき、画像技術の進むべき方向性を見据え、活動の基軸としています。2018年に「Vision 2030」として改訂を行う中で当面の行動を「Action before 2020」にまとめて、学会の発展イメージを具体化しました。

1) 各画像形成技術について新市場の Production printing / Printing for fabrication 領域および設計技術への守備範囲拡大

2) 3D プリンティング領域の強化

3) 視覚分野の強化

4) 画像処理分野の強化

を4本の柱とし、学会の技術蓄積や会員の高い活動意識を武器に新領域にも乗り出すことを目指しています。このような進展によって陳腐化を避け、今後も関係機関の期待と学会員の興味に応え、結果的に学会の規模拡大を図っていきます。

学会スローガン

生活シーンにおける最適な 画像空間の提供を目指す

- ・いつも画像が側にある生活環境
- ・画像技術で生活が豊かになる
- ・いつでもどこでも快適に画像を扱える

日本画像学会長期ビジョン

画像につながる、または画像技術を基にした萌芽技術のインキュベーションの場を担い、生活環境の新たな提案を行う。

* インキュベーション：産学連携に結びつける議論を行う

ビジョンに基づく使命

会員に対する使命

会員のニーズに応え、知的快感が得られるかつ、知の幅が広げられる学会として場の提供、技術領域の拡大・交流をめざします。

社会に対する使命

社会インフラとしての画像は常に側にあり生活環境を形作っています。

たとえば、映画・テレビ・携帯画像・PC・医療・広告媒体・包装・標識・書籍の形で提供され生活を豊かにしています。

我々は画像技術の向上を通していつでもどこでも快適に画像を扱える社会をリードします。

主な活動

■ 年次大会 Imaging Conference JAPAN

年次大会は、最先端のイメージング技術領域で活躍中の多くの研究者、技術者が一堂に会し、日頃の研究や開発の成果発表を通じて活発な討論と意見交換が行われる場です。プリンターやデジタル印刷やデジタル加飾などのハードコピーをはじめとする各種マーキング技術、電子ペーパー/エレクトロニックイメージング/新規イメージング技術/3D 造形/デジタルファブリケーション技術などの分野をカバーしたセッションを構成し、一般講演、招待講演を軸に、ワークショップ、展示会、懇親会などの催しを併設しています。

毎年春期（6月）には、関東地区にて Imaging Conference JAPAN を、秋期（11月）には関西地区で Imaging Conference JAPAN Fall Meeting を開催しています。

2021年度の秋季年次大会は、画像関連学会連合会加盟4学会が共催する国際会議（International Conference on Advanced Imaging 2021, ICAI）としてオンラインで催されました。2025年度年次大会は現地開催とオンラインのハイブリッド、現地では展示会などの催しも併催されました。



年次大会” Imaging Conference JAPAN 2025”

講演会場（東京科学大学, 2025年）

■ シンポジウム

毎年2回（5月：関西、12月：東京）、特定の注目テーマでシンポジウムを開催しています。

また、電子ペーパーなどの、国内だけではカバーしきれない技術分野では、不定期に国際シンポジウムを開催し、国際的な技術交流を行っています。



軟包装におけるデジタル印刷の可能性をテーマとした 2025 年度関西シンポジウム（at i-site なんば、大阪）

■ 技術講習会

イメージング技術の基礎を習得するために、この領域に関係して1~3年の経験者を対象に毎年2回技術講習会を開催しています。春季は東京にて2日間コース、秋季は関西地区にて的を絞った集中講義の1日コースになっています。春季講習会では、実習形式のシミュレーション技術講習も行っています。



第 89 回日本画像学会技術講習会講義会場
(ユニコムプラザさがみはら, 2025 年)

■ 技術研究会

技術委員会の各部会が企画して開催します。各分野での専門技術者や研究者の講演が行なわれます。



2025 年度電子ペーパー・フレキシブル技術研究会
(at 東京科学大学)

■ Imaging NEXT

2024年11月、新しい試みが日本画像学会から始まりました。

10年以上にわたり、技術者たちの交流の場として愛されてきた「イメージングカフェ」が、新しい形「イメージングNEXT」として生まれ変わりました。この新企画は、未来を切り拓く知見や視点を共有し合い、組織を越えたつながりの力で成長を目指す、新しい学びと交流の場です。

Imaging
NEXT



第 4 回 Ima 未来を創る液晶材料とデバイス技術
(第 96 回, 2022 年)

■ 日本画像学会誌発行

年間6冊の学会誌を発行し、会員に配布しています。学会誌は原著論文、技術解説、Imaging Today、学会行事案内等を掲載し、会員の発表の場の提供と会員の知識の向上に努めています。

特集「Imaging Today」では画像技術に関する最近の話題や関連する分野の情報を特集し、解説記事を掲載しています。



年 6 回発行される日本画像学会誌（表紙、部分）

■ Free Talking “Imaging Today”

日本画像学会誌の Imaging Today で特集された解説の執筆者による講演と懇親会を組み合わせた催しです。年 2 回開催しています。

■ テストチャート、標準キャリア、技術用語集の頒布

学会で取り扱う技術について共通の尺度、用語を用いる「標準化」も学会の使命です。その成果物として技術委員会で専門的な立場から研究された高精度なテストチャート、標準キャリア、技術用語集などを頒布しています。



日本画像学会 画像評価技術部会が開発した、
デジタルチャート No. 7

■ 画像技術用語集

日本画像学会が編纂する画像技術用語集は、2024 年に最新の改訂を行い、学会ホームページに公開しています。イメージング技術に関する学習や技術書の執筆等にご利用下さい。



■ 書籍

イメージング技術に関する技術書を編纂し、発行しています。近刊では、「電子写真」、「インクジェット」、「電子ペーパー」、「ケミカルトナー」などがあります。



シリーズ「デジタルプリンタ技術」既刊 4 巻 (2008) と、
2018 年、2024 年発行の最新巻

■ 技術交流会

技術委員会組織下の一部の技術部会では、インクジェット技術交流会、シミュレーション技術交流会など、技術部会が主催するコミュニティを立ち上げ、技術情報交流活動を行っています。

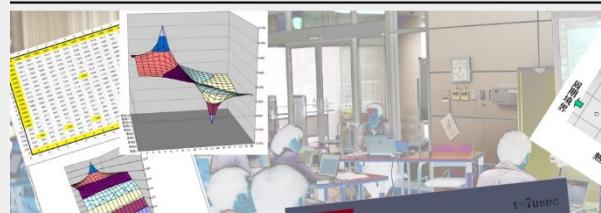
（インクジェット技術、インクジェット技術応用に関するコミュニティーサイト）

isj インクジェット技術交流会



（シミュレーション技術・シミュレーション技術応用に関するコミュニティーサイト）

isj シミュレーション技術交流会



技術部会が主催する技術交流会のホームページ

■ 選奨

本学会の対象とする領域における学術または関連技術の発展に関し、業績ある方を表彰または奨励するための選奨事業を行っています。

業績に対し、学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、技術賞、技術研究賞、会長特賞が授与されます。

高い業績と専門分野への貢献が認められた方にはフェローの称号が授与されます。



学会表彰式での記念撮影シーン (2024 年度)

■ 定時総会

日本画像学会定款に従い、年 1 回の定時総会を行い、重要事項の決議を行います。総会は、例年、春期の年次大会の会期中に催されます。個人会員 1 名につき 1 票の議決権があります。

■ 学会 HP の運営

ホームページで学会の催しの最新情報などをお知らせしています。各種イベントへの参加登録、年次大会への発表申し込み、入会申し込みや会員情報の更新がウェブからしていただけます。

最新の画像技術用語集 web 版もこちらからご参照いただけます。

入会するには

日本画像学会は、複写機、プリンターを主とした情報機器産業とそれに関連する材料、計測機器メーカーに在籍する研究者、技術者が数多く参加しています。画像に関する基礎研究から応用技術までを、物理、化学、機械、計測、情報、生産、さらには感性、社会学などの幅広い学術分野を専門的に、あるいは包括的に議論することができる点で、多くの知的刺激を受け、技術者の好奇心と競争心を掻き立てる魅力的な学会です。広い意味で「画像をつくる」技術に興味のある方の入会を心よりお待ちしております。

■ 個人会員になるには

個人での入会をご希望の方は、学会ホームページから「お知らせ」「入会案内」にアクセスし、必要事項を入力ください。審査後、事務局から会費請求書を郵送します。入金確認後に会員証を発行し会員となります。

年会費 正会員： 8,000円
学生会員： 3,000円

入会されると、

1. 日本画像学会誌を定期的に送付いたします。講習会、技術研究会、シンポジウムなどの諸行事のお知らせをいたします。
2. 講習会、年次大会、シンポジウム、技術研究会などに会員価格で参加できます。
3. 研究成果の発表の場として、年次大会（研究討論会）への登壇、学会誌への論文投稿ができます。
4. テストチャート、標準現像剤、バックナンバー等の頒布品が会員価格になります。
5. 「イメージングカフェ」等、個人会員を優先した催しに割引料金で参加できます。

6. 会員専用の情報公開 web での検索、閲覧が可能です。会員間の情報交換、ネットワークづくりにご活用ください。

■ 維持会員制度と入会の方法

維持会員は、法人、団体が学会をサポートして頂く制度で、口数制になっております。維持会員になって頂くと、次の特典があります。

1. 学会誌を1口当り 2 冊、発行日に送付いたします。また年次大会、研究会等のご案内をいたします。
2. 年次大会、シンポジウム、講習会、研究会等が1口当り 2 人まで会員価格で参加できます。
3. テストチャート、標準現像剤、バックナンバー等の頒布品が会員価格になります。
4. 評議員として評議員会に出席し、学会に意見を述べることができます。

維持会員入会希望の方は、事務局までメール、FAX、電話にて連絡ください。入会申込書にご記入の上、事務局宛送付いただき、理事会で承認されると会員となります。

維持会員年会費（1口当り）：
80,000円（1口以上、何口でも可）

■ 研究室会員制度と入会の方法

2025 年度より、「研究室会員」制度を設けました。正会員 1 名(代表者) および学生会員 5 名で会費 20000 円といたします。通常の会費設定よりも学生会員 1 名分が割安となっています。

入会希望の方は、代表者の入会申込書を記入の上、研究室会員希望の旨を添えてお申し込み下さい。

研究室会員： 20,000円

維持会員リスト（50 音順、2024 年 1 月現在）

株式会社アイメリックス、アドバンストエナジージャパン株式会社、出光興産株式会社、岩崎通信機株式会社、王子ホールディングス株式会社、沖電気工業株式会社、オリエント化学工業株式会社、花王株式会社、カシオ計算機株式会社、桂川電機株式会社、キヤノン株式会社、キヤノンファインテックニスカ株式会社、京セラ株式会社、京セラドキュメントソリューションズ株式会社、独立行政法人国立印刷局研究所、コニカミノルタ株式会社、サカタインクス株式会社、山東華菱電子股份有限公司、三洋化成工業株式会社、シャープ株式会社、シンジーテック株式会社、株式会社 SCREEN ホールディングス、住友ゴム工業株式会社、住友理工株式会社、セイコーワープソン株式会社、大同化成工業株式会社、大日精化工業株式会社、大日本印刷株式会社、高砂香料工業株式会社、DIC 株式会社、株式会社電通総研、東芝テック株式会社、トヨーカラー株式会社、東レエンジニアリング株式会社、戸田工業株式会社、特許庁、凸版印刷株式会社、株式会社巴川コーポレーション、内外カーボンインキ株式会社、株式会社日清製粉グループ本社、日本製紙株式会社、日本ゼオン株式会社、パウダーテック株式会社、バンドー化学株式会社、藤倉化成株式会社、富士電機株式会社、富士フイルム株式会社、富士フイルムイメージングシステムズ株式会社、富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社、富士薬品工業株式会社、扶桑化学工業株式会社、プラザー工業株式会社、保土谷化学工業株式会社、三菱ケミカル株式会社、三菱製紙株式会社、株式会社ミマキエンジニアリング、武藤工業株式会社、村田機械株式会社、山梨電子工業株式会社、山本通産株式会社、株式会社リコー、リコーIT ソリューションズ株式会社



【事務局案内】

一般社団法人日本画像学会事務局

The Imaging Society of Japan, ISJ
〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5
東京工芸大学内

Tel: 03-3373-9576 / Fax: 03-3372-4414

E-mail : isj-information@isj-imaging.org

事務局長： 中山信行
事務局次長： 竹内達夫
事務局員： 西原容子



【ホームページ】

<https://www.imaging-society-japan.org/isj.html>

地下鉄丸ノ内線・都営大江戸線 中野坂上駅より徒歩10分